事業所名　しましまハウス宮川

作成日：　平成22年　1月15日

2　目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者、家族等の要望を聞く機会はあるが、施設からの情報の発信の機会は少ない。また、家族アンケートにおいて報告が少ないとの回答が多かった。	施設での生活の様子などを家族に知らせ、家族からの要望も聞き双方の関係作りをする	1「しましまハウスたより」送付時に各個人の日頃の生活振り、健康状態などを書き添える 2行事等の写真、誕生カード、利用者が作った作品などを適時ご家族に送る 3送付時には家族からの要望を聞けるようにする 4家族からの要望についてどのように対応したか結果、経過を報告する	6　か月
2	11	○運営に関する職員意見の反映 運営に関してはホーム単独では解決できない面が多々あり、(有)しましまハウスとしての方針の決定の経緯が曖昧である。	管理者は施設運営に関する職員の意見を幹部、代表者に伝えると共に、3施設で協議する	1職員間でのミーティングのうち、施設運営に関する事柄については定期的に本部へ報告する 2テーマによっては代表者へミーティングへの出席を要請する 3(有)しましまハウスとしての問題点・方向性を検討するために3施設管理者の意見交換の機会を作る 4定期的に3施設管理者会議を開催できるよう代表者に働きかける	12　か月
3	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重要事項説明書では看取りをしますと記載しているが実際には、協力医との連携困難、施設の力量不足などのため、実施は困難である。	重度化や終末期の対応についてホームの方針を決定する	1看取りへの対応における施設の力量について職員間で話し合う 2看取りの実践の可能性について検討する 3重度化・終末期の対応について家族の意向をきく 4しましまハウス3施設の方針について管理者は話し合いの機会を持つ	6　か月
4	6	○身体拘束をしないケアの実践 身体拘束に関して、専門的な学習の機会は作っておらず、職員全体が拘束は行わないという共通認識には達していない。	全職員が身体拘束は行わないという共通認識を持つ	1「身体拘束ゼロへの手引き」の抄読会を設ける 2過去の事例について振り返りをする 3身体拘束廃止マニュアルを見直し、新しいマニュアルを作成する	3　か月

注1）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。
注2）項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。